

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局 振興企画課		
募集学校種	<input type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input checked="" type="radio"/> 問わない
(○がマークされている部分が希望学校種となります)			
受入れ期間	7月11日(月)～7月29日(金) (上記期間中で1人につき、～2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	予算要求が本格化する8月は受入れ不可		
実習内容	研究振興局全体の業務の流れの把握(振興企画課総括係)、学術に関する基本政策の企画・立案及び関係者との打合せ(学術企画室)、競争的資金に関する政策・施策の省内調整及び関係府省との連絡調整(競争的資金調整室)、並びに日本学術振興会の業績の取りまとめ及びノーベル賞対応の準備作業(振興企画課学術振興係)		
受入れ局課室紹介	振興企画課は、基礎研究・学術研究の振興を担当するとともに、ライフサイエンス、ナノテクノロジー、情報科学技術などの分野別の研究開発の推進を担当している研究振興局の業務を総括する立場であり、局全体の動きを俯瞰的に見て仕事をしています。また、同時に、学術研究や競争的資金などについて局横断的な調整をしており、省を挙げての大きな動きが見える仕事をしています。研究の現場からは少し遠いところではありますが、その一方で、行政内部の調整がどのように行われるのか、政策・施策の企画立案はどのような過程を経ているのかなどは学んでいただけたと思います。		
受入れ局課室からの一言	日本の科学技術振興を支えるのは基礎研究・学術研究にあり！という熱い思いを持った皆さんを大歓迎します。		
過去の参加者の声	丁寧に指導していただいた。常に行っている作業の目的を意識させるような指導を行ってくださった。課内の複数の係の業務体験が出来、また、課以外のたくさんの職員の方とお話する機会を設けて頂けたので、職員の方の仕事への姿勢など、今後の進路選択に向けて得られたものが多かった。		

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局 基礎研究振興課			
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校	<input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 問わない
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)			
受入れ期間	7月19日 ~ 8月19日 (上記期間中で1人につき、2週間以内)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人	
受入れ条件	基礎研究の振興に係る文部科学行政について、意欲を持って学びたいという意志がある方。Word・Excel等パソコンの基本操作ができる方。語学力(英語)をある程度有していることが望ましい。			
実習内容	当課の所掌(下記「受入局課(室)紹介等」を参照)に関連する各種業務の補助、会議の傍聴、資料収集等の実務を経験しつつ、以下に取組む(調査・分析等のテーマは参加者の希望を考慮して設定)。 ①戦略的な基礎研究の推進のための国内外の政策、評価システム等に関する事例や、基礎データ等の収集 ②収集した事例等の分析および課題の抽出 ③分析を踏まえ、より効果的に戦略的な基礎研究を推進するための方策等について、レポートを作成し、職員と意見交換を行う。			
受入れ局課室紹介	<p>◆基礎研究振興課では、新たな知の源泉となりイノベーションの礎となる「基礎研究」に関する業務を担当しています。オープンイノベーションモデルの台頭などの世界の知識生産の潮流の変化が起きている今、経済(産業界)・社会(政治・国民)の期待にどう応えていくか。基礎研究に関する期待と実態のミスマッチに対し、アカデミア・産業界・金融などの多様な関係者にどう働きかけ、どのように改善を図っていくべきか。そんな問いの答えを探りながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織・分野の枠を超えた最適なチームを構築してイノベーション指向の基礎研究を推進する「戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)」(JST)や「革新的先端研究開発支援事業」(AMED) ・世界の頭脳を惹きつける「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」 ・問題に思いがけない解決を与える数理科学と諸科学・産業界との協働の推進 ・人類の叡智に挑戦する素粒子物理学の振興 ・日本が誇る世界最高峰の自然科学の総合研究所「理化学研究所」に関する施策を展開しています。 <p>◆文系・理系、研究所からの出向者など、多様なバックグラウンドを持ったメンバーが居ます。 ◆特定分野の専門知識は問いません。自ら責任を持って動き、国家レベルでの課題解決にチャレンジする意欲のある積極的な方の参加をお待ちしています。</p>			
受入れ局課室からの一言	インターンシップ参加への意欲がある積極的な方からの応募をお待ちしています。			
過去の参加者の声	非公開の会議や、限られた人しか参加できないイベントに参加させていただき、職員と同じように業務を体験でき、また庁舎での業務にとどまらない幅広い業務を体験することができた。多くの時間を割いて意見交換をしていただいた。政策を立案するに当たって考えるべきことが整理できた。			

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局 学術機関課			
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校	<input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 問わない
受入れ期間	7月11日～7月29日 (上記期間中で1人につき、2週間)		受入れ人数 <small>(期間内の合計受入れ数)</small> 1人	
受入れ条件	基本的なパソコン操作(ワード・エクセル・パワーポイント等)ができること。 学術研究行政に関する専門的な知識や技術は必要ありません。			
実習内容	【各係の業務補助】 ・大学共同利用機関、共同利用・共同研究拠点等に関する各種データの集計及び分析 ・集計、分析結果を用いた資料の作成 ・各種会議の資料準備及び傍聴、会場設営の補助 【課題への施策提案】 ・「共同利用・共同研究体制における役割を担うため、大学共同利用機関が備えるべき条件や基準について」等			
受入れ局課室紹介	【当課の主な業務】 ○大学共同利用機関及び国公立大学の共同利用・共同研究拠点に整備された施設・設備や貴重な資料・データなどを、研究者が個々の組織の枠を越えて共同で活用して研究を行う共同利用・共同研究を推進しています。 ○特に、高エネルギー加速器「Bファクトリー」や宇宙素粒子観測装置「スーパーカミオカンデ」など、学術研究の大規模プロジェクトによる研究成果は、ノーベル賞受賞に直接貢献しています。 ○このように、内外の優秀な研究者を引き付ける研究拠点の形成や、国際的な環境下での若手研究者の育成などを図っています。			
受入れ局課室からの一言	当課の業務に関心があり、意欲のある方を歓迎します。			
過去の参加者の声	業務説明が的確であり、様々な人と話す機会を設けてくれた。実際に職員の方の隣で働くことで理想とする公務員像を描くことができ、公務員を目指す動機の明確化につながった。外部施設の視察への随行で、自らの研究分野の学修を深めることができた。			

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局 学術研究助成課			
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校	<input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 問わない
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)			
受入れ期間	「7月11日～7月22日」又は「8月29日～9月9日」 (上記期間中で1人につき、2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人	
受入れ条件	特になし(専門知識等は必要ありません。)			
実習内容	<p>学術研究助成課では、大学等の研究者が自由に研究を行うために必要とする研究費(科学研究費助成事業(以下「科研費」)、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強するための研究大学強化促進事業に関する業務など)を行っています。</p> <p>インターンシップ生には、これらの業務全般について体験できるよう計画を立てる予定ですが、特に希望する業務がある場合には、希望する業務とその理由を申込フォームの備考欄等に記入してください。</p>			
受入れ局課室紹介	<p>専門的な知識や技術は必要ありません。学術研究助成課の業務に関心があり、意欲のある積極的な方の参加を歓迎します。</p> <p>【学術研究助成課の主な業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費の審査・交付に関する業務 ○科研費の広報に関する業務 ○科研費の制度改善に関する業務 ○独立行政法人日本学術振興会が審査・交付を行う科研費に関する指導・助言等に関する業務 ○研究大学強化促進事業に関する審査・交付に関する業務 <p>など</p>			
受入れ局課室からの一言	大学院生、大学生いずれも可能です。			
過去の参加者の声	業務内容等の説明後、実際の業務や会議の傍聴などを行うという流れで実習が行われたため、知識を得た状態で効率よく実習を進めることができた。所管業務が自分の研究分野と関連しており、これからの学生生活や、進路選択に生かせるような体験ができた。			

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局 ライフサイエンス課			
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校	<input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 問わない
受入れ期間	8月29日 ~ 9月16日 (上記期間中で1人につき、2週間)		受入れ人数 <small>(期間内の合計受入れ数)</small> 1人	
受入れ条件	Word・Excel等パソコンの基本操作ができる方。			
実習内容	ライフサイエンス研究に関わる関係省庁との打ち合わせの傍聴、審議会等の会議運営補助、その他一般事務等を通じ、ライフサイエンス分野の研究振興の在り方に関する調査、分析等を行う。			
受入れ局課室紹介	<p>ライフサイエンスは生物が営む生命現象の複雑かつ精緻なメカニズムを解明することで、その成果を医療・創薬の飛躍的な発展や、食料・環境問題の解決など、国民生活の向上及び国民経済の発展に大きく寄与するものとして注目を浴びている分野です。</p> <p>ライフサイエンス課では、再生医療の実現に向けた人工多能性幹細胞(iPS細胞)等の研究、基礎研究の成果を実用化につなぐ体制の構築、脳機能の解析と鬱病や認知症等の克服に向けた脳科学研究、個別化医療・個別化予防の実現に向けたゲノム医療に係る研究開発といった、幅広いライフサイエンス分野の基礎・基盤研究を推進するとともに、これらの研究に貢献する解析機器やバイオリソース等の基盤整備を支援しています。また、生命倫理や遺伝子組換え技術等に係る安全性の問題等に対応するため、生命倫理、遺伝子組換え技術等に関する指針や法令の整備・運用を行っています。</p>			
受入れ局課室からの一言	ライフサイエンス研究の振興に係る文部科学行政について、意欲を持って学びたいという意志がある方、特に自律的に課題を進め、課に対し提案ができる方の参加を歓迎します。			
過去の参加者の声	細部まで丁寧に指導していただいた。職員インタビュー、業務体験、会議の傍聴、課題解決のための提案と職員の方との意見交換など、様々なプログラムが用意されており、有意義なインターンシップだった。職員同士が活発に意見交換しており、良い雰囲気の職場だった。			

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局 参事官(情報担当)付			
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校	<input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 問わない
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)			
受入れ期間	8月1日～ 9月16日 (上記期間中で1人につき、2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人	
受入れ条件	基本的なパソコン操作(ワード・エクセル)ができること			
実習内容	<p>以下のような幅広い業務に従事していただくことを予定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民への情報発信業務(HP掲載等) ○予算の執行に関する業務 ○諸外国のスーパーコンピュータの研究開発の動向の調査 ○科学技術・学術審議会等の会議運営補助 ○職員や有識者とのディスカッションによる政策立案体験 ○その他、施設見学等 <p>※具体的な実習内容は、実習生と相談の上決定します。</p>			
受入れ局課室紹介	<p>参事官(情報担当)付では、我が国の情報科学技術分野における研究開発に係る様々な業務を実施しています。具体的には、スーパーコンピュータ「京(けい)」に関する業務を始め、「人工知能(AI)」「IoT」「ビッグデータ」「サイバーセキュリティ」に係る施策の企画・立案、大学・研究機関等を接続する学術情報ネットワーク「SINET」の整備、科学技術情報流通連携・促進のための情報システム(科学技術情報提供サービス「J-GLOBAL」や電子ジャーナルプラットフォーム「J-STAGE」等)の整備等、その取組は多岐にわたっています。</p> <p>ICT分野は、特に技術革新のスピードが速い分野であり、政府としても「超スマート社会」の実現に向けて、関係省庁が連携し取組を進めているところです。時には第一線で活躍されている最先端の研究者とも議論しながら、推進施策をダイナミックに展開していく必要があります。インターンシップにおいても、その一端を体験していただきたいと考えています。</p>			
受入れ局課室からの一言	専門的な知識や技術は必要ありません。意欲ある皆さんの御参加をお待ちしています。			
過去の参加者の声	配属先を始めとしていくつかの部署の方からお話を伺い、国の政策決定のプロセスを知ることができた。会議で分野の第一人者方々のお話を聞くことができ、自分の興味のある分野について深く学ぶと同時にこれからの学習につながるヒントを得た。課の方は皆さんとても優しく接して下さった。			

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究振興局参事官(ナノテクノロジー・物質・材料担当)付		
募集学校種	<input type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 高等専修学校	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 高等学校	<input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input checked="" type="radio"/> 問わない
(○がマークされている部分が希望学校種となります)			
受入れ期間	8月 22日～ 9月 16日 (上記期間中で1人につき、1～2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	インターンシップ業務に前向きであること(専門的な知識や技術は必要ありません。)		
実習内容	具体的な実習内容については、参加者の方の希望を考慮して計画します。以下の「受入局課(室)紹介等」の欄に記載した業務を参考にいただき、興味・関心がある業務について、学生・生徒調査票(様式4)の「3.希望する受入局課(室)名、志望理由」欄または「4.希望する業務等」欄に記入してください。		
受入れ局課室紹介	<p>参事官(ナノテクノロジー・物質・材料担当)付では、ナノテクノロジー・物質・材料科学分野の政策立案・研究振興を行っています。具体的には、下記の様な業務を行っています。</p> <p>①我が国の資源制約問題を解決するため、レアメタルやレアアースといった希少元素を用いない新しい材料の創製を目指した「元素戦略プロジェクト」に関する業務</p> <p>②大学や研究機関が有する最先端の研究設備を産学官の利用者に共用する「ナノテクノロジープラットフォーム」に関する業務</p> <p>③東北地方の大学や製造業が強みを有するナノテク・材料分野において、産学官協働によるナノテク研究開発拠点を構築することにより、復興に貢献することを目指した「東北発 素材技術先導プロジェクト」に関する業務</p> <p>④物質・材料研究の中核的機関として活躍している(独)物質・材料研究機構の所管課としての業務等</p>		
受入れ局課室からの一言	インターンシップ参加への意欲がある前向きな方からの応募をお待ちしています！！		
過去の参加者の声	職員の方たちの中で頻りにコミュニケーションをとっており、活気のある職場環境だと感じた。思っていた以上に多くの会議や外部施設の見学などに参加させていただいた。自身の研究をどうやって仕事に活かしていくかを考える姿勢の必要性を感じ、今後の研究へのヒントを得た。		